

新たな国立公文書館完成後の三館の機能分担について

※下線部は基本計画に記載のある事項

	新たな国立公文書館	(現) 北の丸本館	(現) つくば分館
特徴	<u>＝多くの国民が利用する展示・閲覧を中心とした総合的施設。本館機能。</u>	<u>＝国内外の行政官や専門家向けの研修等を実施する学習拠点と専門家向け書庫。</u>	<u>＝受入れ機能を集約するなど保存機能（書庫等）に特化。</u>
主な想定利用者	学生、一般来館者、外国人（展示、学習、閲覧、交流等）	行政官、専門家（研修、学習）	地域住民（交流）
書庫機能	<u>展示等に用いられる国の在り方を知るための文書の原本、一般国民の閲覧利用頻度の高い文書、移管元行政機関による利用頻度が高い文書 等</u>	大学等、研究者の利用頻度の高い文書 等	<u>デジタル化された文書の原本等の利用頻度が低い文書や、一般の利用に供することが困難な文書（①原本の汚損または破損のおそれがある文書、②時の経過を経てもなお、利用制限情報を多く含む文書） 等</u>
展示機能	多様な利用者（学生・一般来館者・外国人等）に向けた展示 テーマや対象を絞った企画展 等	—	—
閲覧機能	多様な利用者の閲覧拠点	研究者の閲覧拠点	—
学習機能	学習機能のメインを担い、幅広い層を対象とした多彩なプログラムを実施	北の丸所蔵資料を活用した学習プログラムの実施	—
研修機能	講演会・シンポジウム形式の研修等	国内外の行政官や専門家向けの研修 アーキビスト認証の研修	—
その他	本館機能、デジタル化、修復、複製作成、交流、中間書庫 等	—	地域住民との交流 等

※3館で機能分担しつつも、施設間での文書の移送（本館や分館の文書を新館で閲覧するなど）を行うなど、相互間の有機的な連携により、円滑な業務遂行を図る。